

湯梨浜中学校だより



湯梨浜町立湯梨浜中学校 校長 武田基資（令和4年12月23日）



※本日の終業式での話をweb専用で掲載します。（印刷が間に合いませんでした。）

2学期終業式校長式辞より

おはようございます。雪の終業式となりました。81日間と長かった2学期も今日が最後、明日から1月5日まで13日間の冬季休業、冬休みに入ります。

2学期は大きな行事がたくさんあり、また、授業時間もたくさんありましたから、友達とともに学ぶ中で、みなさんは1学期に比べて大きく成長したと思います。自分の成長を確認し、新しい年に向かって今後の目標をもってください。

さて、年末年始の節目を迎えるに当たり、みなさんにお話したいことがあります。

12月は世界人権デー、人権週間がありました。これは、学校だよりでも紹介したように、1948年12月10日に国連総会で「世界人権宣言」が採択されたことを記念したものです。

「世界人権宣言」は、2度の世界大戦の反省から、人権尊重の社会を実現することで戦争をなくそうと考えられたものですが、残念ながら今年2月に発生したロシアによるウクライナ侵略の戦闘は今も終わりが見えません。この戦闘によって多くの命が犠牲になっています。日本に暮らしているとつい遠い世界の出来事で自分には関係がないと思ってしまうかもしれませんが、この戦闘では日本も含めて世界中の多くの国が大きな影響を受けています。

また、日本が闘った第2次世界大戦も77年前に終戦を迎えていますから、ずいぶん前のことで、みなさんの中には自分には関係ないと思っている人があるかもしれません。

私も日本の敗戦から19年後に生まれていますから、戦争のことは直接には知りません。父や母、祖父母や親戚の人、近所のお年寄りから話を聞いた程度です。

でも、この第2次世界大戦は、私にとってとても関係の深い戦争でした。

私の父は終戦間際に陸軍に入り、鹿児島にい

ました。そして当時戦闘の激しかった沖縄を守るため、輸送船で沖縄に行くことになりました。ちょうど船に乗り込もうとしていたとき、

「これから呼ぶ者は、直ちに後ろへ下がれ」と放送が入り、父の名も呼ばれたのです。それは父が軍隊での試験に合格し、福岡県久留米の予備士官学校に入校することになったためです。

このことがあって私がここにあります。わかりますか。

もう戦争も末期ですから、空も海もアメリカ軍に抑えられていたのです。父が乗るはずだった輸送船は、太平洋に出た途端にアメリカ軍の潜水艦によって沈められました。もしそこに父が乗っていたら父は生きていません。後に母と出会うこともありません。私が生まれることもなかったのです。そうなれば当然私の子どもたちも生まれることはありません。

父が試験に合格したから、合格発表が船の出航に間に合ったから、父が生きて帰って母と出会ったから、私が今、ここにいるのです。

みなさんも同じです。みなさんのおじいさんやおばあさんが生き抜いてこられたから、みなさんがここにいるのです。

戦争だけでなく自然災害でも多くの人が亡くなっています。そして、その後生まれるはずだった命も奪われたことになります。

先祖が命をつないできてくれて我々がここにあります。お正月には神様とともにご先祖にも感謝の気持ちを伝えると喜ばれると思います。そして、せっかくいただいた命ですから、精一杯命を輝かせるために、目標を持って新しい年を迎え、また1年、色々なことに挑戦して自分を磨いていきましょう。

新型コロナの影響はまだまだ続きますが、冬休みの間みなさんが元気に過ごし、1月6日の始業式に笑顔で会えることを楽しみにしています。